

北斗 第2号

この1年を振り返って



2018年10月20日
東京北斗会
発行

昨年の第23回総会・懇親会から一年間、次のような活動などを行ってきました。主なものを次のページから紹介します。

全体の行事

- 2017年10月21日 第23回総会・懇親会
- 2017年12月2日 忘年会
- 2018年3月31日 観桜会(花見)
- 2018年6月 2日 日帰りバス旅行
- 2018年7月21日 暑気払い

ミニ懇親会

- 2018年1月27日 第3回谷川ジギスカンの会
- 2018年5月19日 茂辺地会

幹事会

- 2017年12月2日 第6回幹事会
- 2018年2月10日 第1回幹事会
- 2018年4月14日 第2回幹事会
- 2018年6月 9日 第3回幹事会
- 2018年8月18日 第4回幹事会
- 2018年10月6日 第5回幹事会

北斗市関係

2018年4月28日
「赤羽馬鹿祭り」で
北斗市のPRを応援しました。



昨年の総会以降に入会された方々です。

- 上磯: 青木江里子さん、星川傑さん
- 久根別: 大島大介さん
- 義朗: 大橋英一さん(関係者として入会)
- 谷川: 豊島敏子さん、藤谷幸子さん
- 浜分: 萩森京子さん
- 茂辺地: 日下浩さん

昨年の総会・懇親会



昨年10月21日、「アルカディア市ヶ谷」(私学会館)で、第23回総会・懇親会を開催しました。
ご来賓7名、会員61名、新規会員4名、同伴者3名、総数75名の出席がありました。

昨年の総会・懇親会



昨年の総会・懇親会



今年の忘年会



昨年12月2日、東京「土風炉」において、会として二度目の忘年会を行いました。
38名の参加がありました。少し会場が狭かったのですが、楽しんでいただけたと思います。

谷川 第3回 ジンギスカンの会



1月27日、「谷川小学校」出身者と有志が「サッポロビール千葉工場」で「ジンギスカン」を味わい、その後「ピアノサロン REPEAT」へ行ってカラオケを楽しみました。

茂 辺 地 会

「ねー、そんなに賢いペロどうして交通事故なんかで死んだんですか？クルマは滅多に通らないんでしょ？」
 「そう、上磯から当別に向かう茂辺地の中心を走る道でもない。猫って危ない時、一瞬動かないことあるよね。夕暮時、べしゃんこになって舌を出したままのペロを母とぼろに包んで、涼君は海岸道路、私の頃は大いに遊んだ砂浜海岸、そこで流したんだ。『ねー母ちゃん、ペロどこさ行ったのさ』一瞬、間があって『ペロは星になるんだよ』、暗い夜道、急ぎ足で歩く母の割烹着に必死につかまって帰ったのを覚えてる。一年生になる頃まで、死ぬば星になるんだな、と私は思ってたんだ」

「涼君と私は、いってみれば孫と祖父だね。なんでも現在は小学生は10人だそうだね。私の時は同学年だけで110人いたんだ。いわゆる団塊の世代だけだね。」「全国的な少子高齢化は逃れる術はない訳だけど内堀さんがいた昭和35年頃職業分布としてはどうでしたか？」「調査した訳でなく、私の小学5、6年生の記憶だけだけど、函館や上磯に仕事を持って通勤してた人が一番多かったと思う。朝晩の駅の混みようはすごかったよ。むろん漁業、農業の家もあったけど専業として成立してたかは疑問、狭い平野部で魚類も豊富ではないし、それほど大規模ではなかったように思うけど」「そうですね、漁業では東北の三陸海岸のように外海ではないから、質量とも少ないですね」

「規模は今では量的にはすごいとは思いますが、冬、鮭見橋の下で網を仕掛け、遡上してくる鮭をとり上げるのをよく見に行ったものだよ。子供心に、川を下れば逃げられるのになあ、と。その場で腹を裂かれて受精されて、本体は『ほちゃれ』といったよね。当別の子と口喧嘩して、こっちが『当別のカジカ』と言うと、『茂辺地のほちゃれ』で言い返されたっけ」「鮭の水揚げは、茂辺地の漁獲量のかんりの部分を占めてますよ」「自然の恵みだけに頼らず、積極的に作る漁業に現在はなっているんですよ」「そうですね、養殖の昆布やわかめ、ふのりなんかですね。ただ規模は大きくないし、若者が子育てしながら働けるほどではないですねえ。」

「全国的に、観光で町興しが盛んだけが茂辺地はむずかしいよね。大野平野ではどこかの企業が、大規模にブドウを作って地ワインの生産をするそうだけど、茂辺地もそれに類したことができないかねえ」

「北斗市でも茂辺地の漁港整備には大きな予算を付けて付けてくれていますし、プレジャーボートも係留できるんですよ。内堀さんの頃に比べたら、大きくきれいになって驚きますよ」「そうかね、いさりび線で行ってみるかな、どうだい一緒に行かんか？涼君！」

内堀幸夫



2018/5/19

観桜会（お花見）



恒例の観桜会が、3月31日(土)隅田公園で行われました。参加者は25名でした。昨年は寒い日でしたが、この日は暖かくて絶好の花見日和になりました。

日帰りバス旅行



6月2日(土)「はとバス」を利用した「日帰りバス旅行」がありました。「品川プリンスホテル・ハプナの昼食、六本木ヒルズ・海拔250mからの展望、東京湾クルーズ」を楽しみました。参加者は39名でした。

暑気払い



今年は梅雨明けが6月と非常に早く、暑い日が続く中、
7月21日に開催され、31名が参加しました。

暑気払い



新入会員の感想文です

東京北斗会に入会しての感想文 巖朗会員 大橋 英一

この度は東京北斗会(以下、北斗会と云う)に入会させて頂き誠に有難うございました。
正直に言って、北斗会がこんな楽しい会だとは想像していませんでした。と申しますのも、お話しする方々が、みんな笑顔で親切で、しかも初めて会ったとは思えないほど打ち解けあい、和気あいあいと接して頂いたからだと思います。

入会の経緯としては、3月上旬、松井(文夫)さん…私宅の近所に住んでいて、地元のソフトボールクラブに入ってから30年来の友人…より「北海道の人の集まり(これが北斗会でした)があるんよ、外山(幸雄)さん…10数年前になると思いますが、(社)発明協会主催の研修会で一緒に研修した仲間…も来るので一緒に行ってみるか」との誘いを受け、先ず、3月31日に浅草で行われた「お花見」に参加しました。松井さんから事前に、「この会に入会するには、お酒が飲めることが第一条件で、酒は飲んでも大声を出したり争ったりしないことが二番目の条件」と聞いていました。要するに「みんなと楽しい酒が飲める」ことが条件のようでした。

次に、掛る厳しい(?)条件を満足(人柄もか)したのか、外山さんより「幹事会で入会の許可が出ました、4月14日大井町の土風炉で新入会員歓迎会があるので、是非来て欲しい」と言うような連絡があり、参加させて頂きました。幹事の方々と会うと言っても、何しろ私自身、皆さんの顔と名前が一致していないため、非常に緊張しましたが、会長の佐藤(金也)さん、巖朗の幹事の簡(和弘)さんをはじめ、外山さん等のフォローで、美味しいお酒と共に楽しくおしゃべりでき、招待されて本当に良かったと感じています。

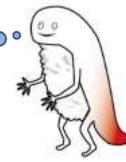
終わりに当たり、会の運営に対し佐藤会長をはじめとする幹事の皆様に敬意を表すると共に、北斗会の益々のご繁栄に加え、会員皆様のご健勝・ご多幸を祈念し、入会の感想としたいと思います。

尚、6月2日に行われた日帰りバス旅行だけでなく、これから実施される各種のイベントにも積極的に参加し、北斗会を盛り上げて参りたいと思いますので、今後ともどうぞ宜しくお願いします。

(2018年6月20日投稿)



今後とも、よろしく
お願いします。



「日帰りバス旅行」の感想文です

親睦バスツアー

石別 矢澤 弥生

好天というよりも暑い日になった六月二日の土曜日、叔母と一緒に初体験のハトバスツアーに参加しました。北斗会の親睦バス旅行も初めてでしたが、もうあと何人かで貸切りという大勢の参加者で、「あっ、ちょっと残念」などと思いつつ出発しました。

まずは皇居前広場の清潔で贅沢な空間に改めて感心。

渋谷のスクランブル交差点はテレビで観るのとは違い、とても狭かった。だからあんなに大勢の人であふれるのかと納得。

お昼のビュッフェは盛大にカニがあったけれど、我々道産子の舌には、「やっぱり食べ放題はこんなもの・・・」。それにしても私の周囲にいらした男性陣の食欲には感心させられました。

六本木ヒルズでは幹事さんが一人迷子と聞いてドキドキ。以前に六本木ヒルズの展望台には上ったことがあったのだけれど、何も覚えていなくて、でもあの大きなクモのオブジェはもう一度見たかったです。

最後は東京湾クルーズ。

ランチクルーズには何度か乗船したことがあったけれど、純粋に船に乗っていることを楽しめました。

驚くほど汚い海面だけれど、やゝ湿った海風に叔母と二人、懐かしい三ツ石を思い出し、行き交う船の人達に手を振り、ウミウが潜るのを目撃し、でも出て来る所は船が進んでいるのだから見られる筈もないのに一心に潜った辺りを見つめてしまったり、アツという間に下船の時間。

最後にガイドさんの「夜のコースもまだ空いていますのでどうぞ」の言葉に楽しく笑いながら、名残り惜しい人たちは二次会に行く様子。私は初夏の暑さにやゝ疲れ気味で帰途につきました。

幹事さん、お世話になりました。楽しい一日をありがとうございました。

“ 皆さん来年は是非貸切りと行きましょう！ ”



会員から、ふるさと訪問便りです

故里上磯を歩く

上磯小学校 桑満 優子

普段と変わらぬ帰り道。生垣に沿って歩く。少しばかり違うのは、土産で膨らんだ背中のリュックと向かい風の心地良さ。『ああおまえはなにをしてきたのだと吹き来る風が私に云う』…そうそう、中也の詩。…『これが私の故里だ さやかに風も吹いている』…数時間前の私は上磯の風の中に居た。

20年近く前に上磯を訪れた事がある。それは12才の転校の悲しみからの訣別をもたらしてくれた。繰り返し夢に現われる町ではなくて、私を育ててくれた現実の町がそこに在った。

今回は上磯を離れて二度目の訪問となった。「上磯歩き」と称したプランを幼馴染のTちゃんが考えてくれた。Cちゃんの運転で函館空港から旅は始まった。国道228号線。私達は海岸道路と呼んでいた。ピンクページのミキサー車が走っていた。通学路から外れていたが、浜に出たくて危険な横断をしたものだ。当時、浜で拾った印象深いものがある。平たい石で表面に花形の模様が刻まれていた。後年になって漸く知った名前が「タコノマクラ」。雲丹の仲間で見えたのは殻だった。羽田からの同行者のEちゃんも覚えていると言う。改めて調べてみると生息域は本州中部以南とある。環境の変化なのか、潮に流され打ち上げられたものなのか？

そんな話をしていると、駒ヶ岳が見えた。「どんなに沢山の山々があろうが富士山と駒ヶ岳の姿だけは分かる」私の妙な発言に笑いが溢れた。もう一つ、笑いを誘ったのが函館山だ。海を隔てて眺める度に私は空想をしていた。山頂の鉄塔が舟のマストに見えて仕方なかった。大洪水の後に山の上に流れ着いたという「ノアの方舟なの？！」。聖書の中身もアンテナも知らない幼い日の思い込みには今も吹き出してしまふ。思い出の中の幼き私に告ぐ。「函館山の上はね、何も無いよ。夜景を見る人でいっぱいさあ。」

…函館山からの夜景は素晴らしかった。上磯の町、セメント工場、沖合に堂々と伸びる栈橋も見えた。美しいものは心に美味しい。涙が溢れた。

何となく感傷的になってしまった。楽しい旅の思い出に戻ろう。我々4人組の思い出の場所を訪れた。鬼ごっこをした上磯八幡宮裏の草むらは住宅地になっていた。缶詰やおやつを持ち寄り探検した大工川の河原はとて狭く思える。引き込み線近くのチップの山は跡形もない。…昭和30年代。子供は思い切り遊んでいた。今ならば「危ない」の一言で止められてしまふだろう。なんて生き生きとしていた子供の遊び。場所は消えても記憶に残っている日々。幸せな気持ちでいっぱいである。

町歩きはほとんど続いた。町なかは、日射のせい、車社会になったのか人が歩いていない。車から降りて歩いている我々が目立つ。そして更地も目立つ。伊藤の本屋、べこ餅を売っていたMちゃんのお店、いわい商店。Tちゃんの家は今も無い。Eちゃんの家も。Cちゃんの家は更地になったんだねえ。家の間取りも覚えていたのだけれど。

今回は小学校からセメント工場、秋葉神社までじっくりと歩いてみた。無くなったものもあるが私は忘れなし、寂しくもない。上磯町飯生町のセメント社宅から飛び出して、私は仲間と大いに遊び大いに笑って過ごしていた。今もその仲間と同じ空気を吸っている。6月とは思えない強い日射しの下、時折吹く風の中に私は居た。

(2018年8月13日投稿)



「誠ちゃん」の茂辺地魂(たましい)

茂辺地出身で当年84才の香気幸齢者(本人の名刺に記載しています)の会員がいます。本人は今も佐野銘材の社長を務め創業45周年になります。そして、80才から登山を始めて富士山、南アルプスの北岳などを登頂し、自信が付いてサーフィンに挑戦し、既に4年が過ぎ、完全にハマってきたとのことです。

我々、茂辺地衆の小・中学校の大先輩でもあり、個人的には、年に数回会って酒を飲みながら茂辺地の活性化について語り合う良き兄貴分でもあります。

この方こそ、有名な「波乗傘寿のせいちゃん」や「世界最年長のサーファー」と呼ばれている本名「佐野誠一」さんです。

八十路の坂を超えた誠ちゃんの活躍ぶりを聞き付けてフジテレビ(2016年6月30日放映)、ブラジルテレビ局、雑誌社などからの取材を受けています。

この年齢で何処からこのエネルギーが湧き出て来るのか推測して見ると、私は茂辺地魂にあると思っている。この魂は茂辺地の荒海できたえ、そして自然豊かな環境で培った特殊な信念が身体の中に宿っていて、行動を起こすたびにこの魂が存分に発揮されるのだらうと思っている。

趣味には社交ダンスやシャンソンもあり、まさに八十路の老春を謳歌している誠ちゃんであります。

誠ちゃんは、2020年東京オリンピックのサーフィンを楽しみにしており、自分がサーフィンのデモンストレーターになりたいと夢は尽きません。

我々茂辺地衆も茂辺地魂を養って誠ちゃんにあやかりたいと念願する次第です。

誠ちゃんのサーフィンはPCやスマホで「波乗傘寿」やグーグルで「世界最年長サーファー」と入力ご覧下さい。

坂本東洋志 記



「茂辺地」から、ふるさと便りです

茂辺地の近況報告

茂辺地町内会会長 山本 昭宣

この度、東京北斗会の佐藤金也会長様から、会報『北斗第2号』に、茂辺地の近況を掲載したい旨のお話を伺いました。拙文ではございますが投稿させていただきます。

まずは、私ごとであります。現在茂辺地町内会会長を仰せつかりまして、今年4月から5期目になります。図らずもこのように長期に渡って町内会長を務める事になるとは思ってもいなかった訳であります。そもそも、私が町内会活動のお手伝いをしようと思った切っ掛けは、私の祖先が越前敦賀から茂辺地に足を留めたのが、1700年代(元号では元禄～享保)で以降300余年の長きに渡って茂辺地の皆様にお世話になったことに対して、幾ばくかの恩返しができればとの思いからです。元より浅学菲才であります私は、役員や会員の協力を頂きながら、安心・安全な住みよいコミュニティ創りに努める所存であります。

さて、平成18年2月1日に北斗市が誕生した時には、人口が凡そ4万9千人で5万人が目前と思われていましたが、以後今日に至るまで漸減現象が続いております。特に茂辺地地区(以後石別地区を含む)においては、人口減少さらに少子化・高齢化が顕著になり、こういった現況に鑑み北斗市では総合戦略会議において、茂辺地地区活性化のための事業提案がされ合わせて予算措置をして頂きました。これを受けて地元では茂辺地地区の現状と将来に危機感を持った応募会員によって“茂辺地地区創生会議”を組織化しました。また、北斗市では空き家バンク制度を充実し、市外から茂辺地地区への移住者に対して費用を負担する促進策も強化して頂きました。

茂辺地地区創生会議では、地元の観光資源の有効利用と北海道新幹線開業に伴って廃止になった“寝台特急北斗星”の車両の展示会場として茂辺地北斗星広場を開設し地元産品を利用した飲食の提供施設“北斗軒”の開設、地元特産品の販売、北斗市の市花“マリーゴールド”の植栽、記念植樹事業等、種々のイベントを開催して賑わい広場として活用しております。以上は、交流人口の拡大を茂辺地地区への定住化につなげることをターゲットにした事業として3年を目前に展開中です。今年は2年目に当たり平成31年度は最終年度となります。市の補助なしで自走するために奮闘中です。

一方、地域の高齢者が気楽に集まって楽しむことができる場として、また、介護予防の機能も合わせ持つ“わくわくサロンひだまり”が地域住民の自主的運営で月2回開催しております。会員・サポーターを含め約50人によって事業を展開中です。住んで楽しい、住んで良かったと思われるコミュニティ創りがターゲットです。

また、任意団体の「茂別、今昔物語」では、一昨年“茂別村生誕110周年記念事業”として「昭和ノスタルジアコンサート」、昨年は「コンサート ホッカイドウ ソングス」を開催し今まで茂辺地地区で経験したこと無かったジャンルのコンサートを開催し好評を頂きました。また昭和30年に茂別村が上磯町と合併する前の短期間に歌い踊られていてその後忘れられてしまった「茂別音頭」「茂別小唄」の復活とCD化事業を行いました。このCDにつきましては東京北斗会の皆様にも大変お世話になりました。また地元茂辺地が生んだ池田甚三郎画伯の絵画展の開催。さらには茂辺地・石別小学校児童を対象とした“ポップコーン・シネマ館”を夏休みと冬休みに年2回の開催を始めました。

以上、茂辺地地区では、多岐に渡り重層的に活性化のため積極的に事業活動を活発化しております。他の町内会からはお世辞も含めて茂辺地地区はよく頑張っているとの評価を頂いておりますが、これに満足すること無く引き続き地域が一丸となって茂辺地地区の活性化のため頑張っております。

末筆ながら東京北斗会の益々のご隆盛と会員各位のご健勝をご祈念申し上げ、茂辺地地区の近況報告といたします。

(平成30年7月吉日投稿)



「北斗市」から、ふるさと便りです

「人とひとのつながりを大切に
魅力あるまちづくりを目指して」



北斗市町会連合会 会長 田畑 定男

北斗市が誕生して早十二年。わが北斗市町会連合会では、それぞれの地域の文化や慣習を尊重しながら一体融合した中で、市民の融和を図ってまいりました。

また、市内の86単位町内会の活動をもとにして、10地区の地区連絡協議会を設け、地区連絡協議会単位の活動も展開して参りました。

現在、少子高齢化の進行とともに社会全般の連帯感が希薄になり、住民の価値観や生活形態が大きく変貌する中、地域の問題をその地域で解決する仕組みづくりなど、行政と一体となった「協働のまちづくり」が求められております。

北斗市町会連合会といたしましても、地域の輪を大切に、単位町内会はもとより、地区連絡協議会の連携を強固にして、輝かしい「北斗市」の未来をめざし、活動を推進しているところです。

北海道新幹線が開業し、北海道から九州鹿児島まで一本のレールで繋がってから三年目。これまで、わがまちの誇るすばらしい桜の景色やきじひき高原の絶景もあいまって、より多くの観光客の方がここ北斗市を訪れていたことを実感しております。

また、市内の子どもたちがスポーツや吹奏楽、合唱などの部門でめざましい活躍をされ、全国に北斗市の名をとどろかせ、PRのため貢献されていると実感しております。

ふるさと「北斗市」は豊かな自然に恵まれ、また新幹線新駅の所在地として発展し続けております。

私たち北斗市町会連合会も、「思いやり」や「ふれあい」、人と人との「つながり」を大切に、魅力と活気あふれるまちづくりに向け、活動を推進してまいりたいと思っております。

結びになりますが、東京北斗会のますますのご発展と、会員皆さまのご健勝並びにご多幸をお祈りして、ふるさとからのお便りとさせていただきます。

(平成30年8月31日投稿)

佐藤会長 この1年を振り返って

東京北斗会 24周年を迎えて 会長 佐藤金也



東京北斗会は今回24周年を迎えることになりました。

会員の皆様におかれましては日頃から各行事に参加をして頂き厚く御礼申し上げます。

当会は今後とも会員の交流と親睦をはかりふるさと北斗市の発展に寄与すべき活動を続けてまいります。

さて今年も内外に大きな出来事がありました。外においては南北首脳会談・米朝首脳会談などで北朝鮮の非核化に期待が集まりました。一方国内では異常気象による猛暑と西日本豪雨です。7月に西日本中心に集中豪雨による河川の氾濫 土砂崩れなどで大災害が発生し多くの被害が続出しました。豪雨の要因としては温暖化に伴う気温の上昇があると言われております。今後も災害につながるような特別警報には敏感に反応しましょう。また記憶に新しいところでは8月に山口県で2歳の男の子が行方不明になり3日後に無事救出されるニュースがありました。奇跡のような出来事に国民は安堵と発見者に賛辞をおくりました。

ところで北海道新幹線開業から2年過ぎましたが北斗駅横には待望のホテルや商業施設も出来て徐々にですが駅前らしくなっております。月に一度は駅前で賑わいづくりの土曜市を開催したり活性化に取り組んでおります。更に駅周辺に商業施設や医療機関の立地を目標に誘致活動に一層の拍車がかかるでしょう。

今年の交流行事で観桜会 日帰り旅行 暑気払いなど実施してまいりましたが参加者が年々増えており幹事一同喜んでおります。年内にはあと忘年会があります。12月8日「土曜日」です。多くの会員の皆様と共に一年の締めくくりをしたいと願っておりますのでご出席のほどお願いいたします。

最後に東京北斗会のますますの発展と会員の皆様のご健勝そして北斗市のさらなる飛躍を祈念してご挨拶といたします。

米田事務局長 この1年を振り返って

「会の事務報告」 事務局長 米田正彦



北斗会の会員の皆様お元気にお過ごしでしょうか？

2018年は東京北斗会をもっと活発にしようと、観桜会・バス旅行、暑気払い・出身小学校別懇親会・地域別懇親会などの行事や、2ヶ月に1度の幹事会後の昼食会に新規会員の方の歓迎会をおこなってきました。そして12月には忘年会が計画されています。

幹事会で更なる北斗会の発展のための行事を考えていますが、会員の皆様からも行事等のアイデアを頂きたいと考えています。行事などのアイデアがあれば地区幹事にお伝え頂ければ助かります。

今後とも、会員の皆様に喜ばれるような会にするために一層努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

池田事務局 この1年を振り返って

今年の行事を振り返って 事務局 池田喜久雄



今年も総会の時期となりましたが、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか、事務局として行事に携わり、12月忘年会、4月花見、6月日帰りバス旅行、7月納涼会と昨年の総会後に開催した行事について、徒然に振り返ってみたいと思います。

参加された方はご存知でしょうか、一応北斗会の会員への行事として、4行事を開催しました。昨年12月忘年会 38名(昨年31名)今年4月花見25名(同20名)6月日帰りバス旅行 39名(同28名)7月納涼会 31名(同24名)これが昨年総会後の行事の参加人数となります。概ね昨年の参加者を上廻って終了し、30人の「壁」も越えてきてます。

特に日帰り旅行は昨年より11名増加し、バス1台チャーターできる人数となっております。品川プリンスホテルレストランで食事し(このレストランはバスを限定しており、大手のはとバスでもこの1台のみ)東京湾をクルーズでの観光でした。6月2日と梅雨前のギリギリで天候にも恵まれました。参加の方には昨年参加して印象良かったので、今回関東在住の親戚の集まりに利用された方もおられ、来年もこの旅行で集まる事になっていると聞いております。これも天候が良い時期を選択した事と内容が良かったのかなと勝手に自己満足に浸ってます。ぜひその様な活用をして頂ければ幹事として冥利に尽きます。時期、場所は幹事会にて決定し、個人の意向では当然決まりませんが、来年は山中湖から見る富士山(私的には富士山を観るには山中湖が最高です)を提案しようと思ってます。但し決まるかはわかりません。早めに人数40名確定できれば、他の場所でもオリジナルで出来ます。是非参加をお願いします。

行事関係も30人の「壁」を超え、更に活性化していければと考えてます。それには昨年も述べましたが、周知の徹底です。これを見られた会員の中には、そんなに行事していたのと思われている方も少なくないと思います。又東京北斗会のホームページには記載してありますが、それだけ見て参加しようと思う人は少ないでしょうし、又参加しようと思っても、知り合いが居なければ躊躇すると思われれます。その点を裏方として対策を講じていこうと考えてます。

私は今年も8月に墓参りで北斗市に帰省し、市役所の方々と情報交換し、茂辺地出身ですので茂辺地支所も訪問しました。茂辺地は当別と共に創生会議を立ち上げ地域活性化の為にいろいろ方策を進めてます。茂別音頭のCDも作成しました(当方にありますので、希望の方に配布しますが有料です)北斗軒も地元の方が運営してます。北斗市も人口が毎年300人程減少しており(ちなみに函館市は3000人程らしい)種々対策を講じてます。私共関東在住ですが、何かお手伝いできないかと幹事一同奮闘しております。ふるさと納税もそうですが、北斗市への移住を検討している方への情報提供などです。ご主人が定年になり、奥様も北海道出身で北斗市で第二の人生を検討している方等おられましたらご連絡下さい、いろいろ情報提供ができます。

会員の中には関東圏に自宅等所有し、帰省はしても、もう住むことはない方、又戻らなく、親戚も少なくなったが墓はある方など、ふるさとにいろいろな想いを持ちながら関東で生活を営んでいると思います。そのようないろいろな想いを皆さんと語り合える場としての、北斗会にしていきたいと常々考えており、いろいろな行事を企画していきます。又併せて北斗市に東京北斗会として貢献できる事がないかも常に考えております。

今年も総会に北斗市の方々が池田市長他来られますので、ふるさとの話をしながら、食べて、飲んで、語って、笑って、最後に「ふるさと」を唱って終ればと思います。楽しみましょう。よろしくお願い申し上げます。

松田幹事からの投稿です

新市長池田達雄君、市民課長今村君に捧ぐ 松田 有司



2年前の東京北斗会総会で池田達雄市議会議長に42年振りに再会しました。

(今村君には2年振り)

変わらぬ池田君がそこに居ました。頭髪も黒々と同じ年とは思えませんでしたね。

(小生は白髪頭で老け顔ですが…)

談笑を重ねている内に上磯中学校の同期であったこと、小生が生徒会長で、池田君が副会長だったことが、走馬灯のように思い出されたものでした。

そして、2月の北斗市の市長選挙で、池田君が当選し、大いに喜んだものです。5月にお袋の見舞い帰省時に、今村市民課長と共に五稜郭で旧交を温め、昔話に花が咲きました。

今村課長も実は函館高専の同期で、新婚旅行(33年前)のグアムでのホテルでも偶然、再会した不思議な縁を持つ同級生です。

杯を重ねていくうちに、地方行政の首長としての大変さを垣間見ました。少子高齢化、人口微減、新函館北斗駅前の企業誘致、観光客の掘り起し、地場産業の発展、問題山積です。

これからは、北斗市ふるさと親善大使3年目を迎え、上磯中学校生徒会長時代の恩、函館高専時代の縁を今こそ大切にして、池田市政に還元すべく、郷土の発展に微力ながら寄与していく所存です。来年お互い還暦なので無理は禁物ですが…

* 池田君に負けじと最近、白髪ぼかしで黒髪に染めている、石破茂自民党元幹事長に似てると良く言われている松田有司より。

坂本副会長からの投稿です

「茂辺地駅のホームで海鮮BBQ」 茂辺地 坂本東洋志

9月1日の新聞(NIKKEIプラス1)に掲載された記事の概要を披露致します。

道南のいさりび鉄道を走る「ながまれ海峡号」は質素な作りながらも、観光で行く鉄道の旅で日本一のグランプリを受賞した実力派とのこと。

この「ながまれ海峡号」は、函館と木古内の間を出発日限定で往復する。代金は9800円～1万1800円で大人も子供(小学生)も同額。

通常、函館から木古内間の所要時間は各駅停車で1時間程度であるが、それを、倍の時間を掛けて往復4時間でゆっくり走る。函館を午後4時頃発車すれば、木古内からの復路は夕暮れとなり、函館山のシルエットが浮かび上がり、出漁する漁船のいさりびがきらめいて、素晴らしい景観となる。そして、ハイライトはなんと言っても茂辺地駅。駅のホームで地元の人がパーベキュー(BBQ)「いさりび焼き」を上演販売してくれるとのこと。

朝に北斗市の海でとれたばかりのツブ貝とホッキ貝が主役である。

なまら、うまいっしょ！と思わず声をあげてしまうらしい。

因みに、「ながまれ」とは、ご存知のとおり道南地方の方言で「ゆっくり」とか「のんびりして」と言う意味である。





東京北斗会 会員名簿 2018年9月20日現在



会員の卒業した小学校または関係する小学校ごとに分けています。
()内は旧姓です。

小学校	会 員
石別	朝倉孝則、市川雅夫、勝山康二、小林正孝、酒井秀人、佐々木定信、佐々木敏彦、澤野愛子(高橋)、染木トシ(高橋)、高根カツ子(汐谷)、高橋昌次、高橋宏和、高橋昌三、高山義広、中島利恵子(菊地)、野左近康蔵、松田明美、松田洋一、矢沢弥生(佐藤)、山川毅、山田道夫、龍崎千遙
清川・沖川・島川	木村稔、高橋牧子、竹田陽一、出口正幸、畑ひろ子、花木瞳(斎藤)、丸山トシ、宮崎和子(竹田)
上磯・久根別	青木保、青木江里子(川浪)、東正則、池田均、石本宣章、板谷勲、伊藤十六、伊藤雪雄、井上稔、井上豊、岩本正則、大島大介、小田嶋幸三、金谷忠勝、川上喜代(福田)、木谷諭、工藤良悦、會澤宣昭、黒川リツ子(石田)、黒田博、桑満優子、郷内繁、小島眞澄、小島征子、木幡恒、小松二郎、小松直樹、斉藤道子、佐々木憲昭、佐藤茂雄、清水目憲司、清水目千枝子、鈴木将史、相馬滋、袖田正子(木村)、外山幸雄、高井信一(野呂)、館文雄、中村晶子(田中)、中村優美子(中西)、橋本朝夫、馬場幸雄、平田新一、福原孝久、福原京子、星川傑、本間美耶子(長崎)、松田有司、宮崎里志、宮崎俊昭、宮崎紀夫、村上千鶴子(郷内)、山本善正、吉泉幸子(柳谷)
裁朗	麻生正枝(若松)、石川誠一、岩山真一、大鹿幸子(葛西)、大橋英一、簡和弘、甲谷光孝、塩川みつえ(原田)、武井満野子(根津)、飛田幸廣、中野忠彦、松井文夫、吉田牧子(佐藤)
谷川	石井郁子(高橋)、内田笑子(滝本)、大橋文子(安田)、斉藤清信、坂入登美子(下国)、佐藤則道、須藤良作、高橋博、塚本睦子、豊島敏子(菅藤)、長澤久子(高橋)、中村美佳(金澤)、野田周三、長谷川隆治、日野憲雄、廣田葉子(斉藤)、廣田明子、藤井哲哉、藤谷幸子(高橋)、和田通子(三浦)
浜分	小笠原雅則、岡部カツ子(佐藤)、小笠寺直巳、北村三紗子(堀内)、小池祐子(小倉)、小棚木透、澤田利江(小山内)、菅藤ちよみ(松橋)、鈴木恵子、立花栄子(成田)、谷杉栄策、成田一征、西沢トシ子、萩森京子(小倉)、早川敬子(田村)、林猛、藤田幸(佐藤)、細川国勝(堀内)、山本恵理(上井)
茂辺地	青戸輝(又地)、池田喜久雄、池田良穂、石橋一利、岩谷潤一、内堀幸夫、大野洋子(佐々木)、小川厚子(木野)、加藤和子(吉田)、北林志津江(坂本)、日下浩、久保知子(星野)、坂井双葉(佐藤)、坂本東洋志、佐藤金也、佐藤たい子(峰尾)、佐野誠一、宗山友男、高橋昭則、高橋ミエ子、高橋幸夫、高橋冷子(佐藤)、田中正昭、辻田康治、辻田満子(中川)、堤幸子(高田)、中田真樹子(小野寺)、袴田隆雄、又地敬司、棟方美千子(畑中)、山崎弘子(池田)、横田元子(野口)、吉川静枝(富高)、
大野・市渡	大塚幸枝(舩甚)、小笠原昇、長川絵美、澤村和也、鈴木一弘、土屋治、寺田和彦、寺田光世、寺田絹代、平川セイ子(寺田)、米田正彦

会員だより

総会出欠の返信葉書や会費振込用紙に書いて送っていた会員
の近況を紹介し、この広報の印刷の都合上、9月20日着までの分を掲載しています。

- ★「何とか頑張ってるどー」石別 朝倉孝則
- ★「盆に帰省したが、空気が違ったよ!! 滞在中、最高気温25°Cでした」石別 佐々木敏彦
- ★「大変残念ですが、昔の会社のOB会と日時が重なり、会社関係に出席の返事をしたので欠席とさせていただきます。申し訳ありません。」義朗 甲谷光孝
- ★「今回をもちましてご案内の発送を中止させていただきます。ありがとうございました。」
義朗 大鹿幸子(旧姓:葛西)
- ★「今回はじめての参加です。元気にやっております。よろしくお祈りします。」義朗 岩山真一
- ★「8月20日に成熟白内障の手術をしました。世の中がこんなにも明るく見えたのに感激する・・・老眼も治った感じ?」義朗 簡和弘
- ★「今期をもちまして、退会致します。長い間お世話になりありがとうございました。」
谷川 内田笑子(旧姓:滝本)
- ★「函館の住吉町で(6月から10月末)迄、仮住まいして居ます。申し訳ありませんが、宜しくお祈り致します。」谷川 齊藤清信
- ★「毎回ご連絡ありがとうございます。仕事の関係で欠席します。なお、年会費は本日振込みましたので、よろしくお祈りします。」上磯 池田均
- ★「申し訳ありません。大阪で用事があり、出席できません。」上磯 木幡恒
- ★「通院ばかりの生活です。」上磯 小島真澄
- ★「初めての参加です。よろしくお祈りします。」上磯 星川傑
- ★「仕事を変えまして、土曜出勤の生活です。参加できずに残念です。」上磯 桑満優子
- ★「86歳になりました。元気で頑張っております。皆様にお会いすることを楽しみに。」
上磯 井上稔
- ★「ご苦労様です。これまで一度も出席出来ませんでした。年齢のこともあり、これにて北斗会を脱会させていただきます。よろしくお伝え下さい。」上磯 佐々木憲昭
- ★「秋には大阪へ戻ります。申し訳ありませんが退会します。皆様によろしくお伝えください。」
上磯 橋本朝夫
- ★「7/2~6まで7年ぶりに新幹線で北斗市に到着!! 広大に広がった駅周辺を見て発展した我が故郷に目を見張りました。その反面、心に残っていた風景が変り淋しい思いもありました。「時代とはこう言うことか」と納得したりでした。」上磯 吉泉幸子
- ★「毎回活動ありがとう! 今回も成功させましょう」茂辺地 佐藤金也
- ★「猛暑の中、お元気ですか。これから猛暑の疲れが出ると思います。気を付けて下さい。私は元気でヘルパーのパート頑張っています。」
茂辺地 山崎弘子(旧姓:池田)

会員だより

総会出欠の返信葉書や会費振込用紙に書いて送っていた会員
の近況を紹介し、この広報の印刷の都合上、9月20日着までの分を掲載しています。

- ★「幹事の皆さまいろいろご苦労さまです。皆様にお会いできることを楽しみにしています」
茂辺地 加藤和子
- ★「前にもお話ししましたが、我孫子市の福祉バザーが10月20日にあり、その日の当番に当たってしまいました。金也さんから、せつかく手紙いただいたのに申し訳ありません。茂辺地会ありましたら知らせて下さい。」
茂辺地 高橋冷子(旧姓:佐藤)
- ★「幹事さん、いつもありがとうございます。今回は出席できずすみません。義父が97才で旅立ち
まだなんとなくバタバタしております。いま納骨等の整理等におわれています。茂辺地だけの集まり
があれば参加したいと思えます。皆様に宜しく」
茂辺地 大野洋子(旧姓:佐々木)
- ★「元気です！」
上磯 山本善正
- ★「毎々大変お世話になります。今回は体調悪く欠席させていただきます。北斗市長池田さん
にお目にかかりたかったです。よろしく伝えて下さい。」
上磯 清水目憲司
- ★「毎々大変ご苦労様です。今回は都合により欠席いたします。東京北斗会の益々のご発展を祈
念申し上げます。」
上磯 清水目千恵子
- ★「初めての参加となります。よろしく願います。」
久根別 大島大介
- ★「年会費は当日一緒にお持ちします。」
上磯 袖田正子
- ★「いつも有難うございます。諸事繁多の為、今回も欠席致します。」
峯朗 石川誠一
- ★「81歳になり外出は億劫になりました。」
浜分 小笠寺直己
- ★「平成30年2月1日に娘を出産しました。北斗市の実家に里帰りし、産前・産後、北斗市で過
しました。」
浜分 山本 恵理
- ★「毎年血圧が上昇、耳も難聴が進み。現在は歯医者に通院中です。東京北斗会の皆様とお逢
いするのを楽しみにしております」
茂辺地 辻田康治
- ★「毎日忙しく仕事をしております。皆様の健康を祈っています。」
茂辺地 田中正昭
- ★「暑い夏でしたネ！皆さんお身体に気を付けて健康でお会いしましょう！」
茂辺地 北林志津江(旧姓:坂本)
- ★「倒れて以来あれからずっと寝たきりです。回復の見込みなし・・・ 皆さんによりしくお伝え下
さい。」
茂辺地 宗山友男
- ★「最近歩行困難になりましたのでお手数をかけて申し訳ありませんが会員より削除下さる様お
願います。」
浜分 西沢トシ子
- ★「北海道地震があつて大変でしたが上磯は軽くて良かったです。皆様とおしゃべりできるのを楽
しみにしております。」
上磯 本間美耶子(旧姓:長崎)
- ★「体調がよくないので出席できません。幹事の皆様ご苦労様です。」
上磯 斉藤道子
- ★「旅行の予定があり欠席します。」
上磯 宮崎俊昭

会員だより

総会出欠の返信葉書や会費振込用紙に書いて送っていた会員
の近況を紹介し、この広報の印刷の都合上、9月20日着までの分を掲載しています。

- ★「いつも会のためにお骨折りいただきありがとうございます」 茂辺地 高橋幸夫
- ★「実りの秋、美味しいものを前に糖質制限の日々です」 茂辺地 辻田満子(旧姓:中川)
- ★「去年は出席出来楽しい時間を過ごしました。今年は残念ですが体調不良、通院中ですので欠席させていただきます。盛大の会となります様に」 浜分 岡部カツ子(旧姓:佐藤)
- ★「この夏は暑さでグッタリでしたが、今は少し元気がでてきました。」 浜分 萩森京子(旧姓:小倉)
- ★「医者に20年かかってはいないけど、元気で生きてんぞー。」 茂辺地 内堀幸夫
- ★「いつも有難うございます。楽しみにしております。宜しく！」 茂辺地 久保知子(旧姓:星野)
- ★「北斗会 中止します 病気のため」 石別 澤野愛子(旧姓:高橋)
- ★「午前7時半から保育園でゼロ～2才児の子守、外食する時ごはんは”小盛”で…これがホントの”こもりのおばちゃん”だ。今の人は知らないか～」 石別 松田明美
- ★「元気でゴルフ場の仕事を楽しんでいるよ。息子達と家族旅行するので総会は行けない。会費は振り込んだけど、もうネット振込にしてほしい。」 石別 野左近康蔵
- ★「大変御苦労様です。朝倉孝則出席の予定です。よろしく願い致します。」 石別 高橋昌三
- ★「5日千歳着、台風倒木でJR不通。何とか札幌着。夜半に地震で全道停電。なまらいいんでない会で北斗市PRすべくポスターとパンフを持参するも中止。翌日、復路予約と千歳再開時間がびったりでラッキー。んだどもさ、千歳空港の混雑凄まじく、ド疲れ。」 石別 龍崎千遙

外山事務局からの投稿です

ふるさとでクラス会

上磯小学校 外山 幸雄



亡き父の3回忌のため帰省した。「クラス会」をやってくれるよう、連絡を取り合っている徳家君に事前に頼んでおいた。

クラス会は上磯駅近くの「敏鮎」で18時半開始。前回2年前も同じ場所でクラス会があって、7人参加だった。このときは、ほとんどの人とは中学校卒業以来の再会であった。今回は10人と聞いていたので、果たして誰が来るのか、そしてお互い分かるかどうか楽しみだった。

乾杯するや否や、中学校のときの話が次々と出てきた。

私たちのクラスは上磯中学校2年8組だった。そして3年のときもクラスは変わらず、そのまま3年8組になっていた。学校が手狭だったのか、私たちのクラスの教室だけは、体育館横のへんてこな場所にあって完全に隔離されていた。

山本君曰く「俺たちのクラスはスポーツ大会でいつも一番だった、悪いことも・・・」。秋田君「クラスで厭なことはみんな「そおどやま」にやってもらった(本当は「そとやま」だが、なまっているぞオ!)」、私には記憶はないが、畠山さんは卒業文集を持参してきた。皆ひと言書いていた。私は「○○」と二文字書いていた。

今宵はあつという間に過ぎ、実家にたどり着いたのは、やっぱり次の日になっていた。

ここで問題です、「○○」は何だったでしょうか？ 当たった人には私から「目が飛び出るほどすごいプレゼント」があります。

東京北斗会のホームページ

<http://yuksoto.sakura.ne.jp/TokyoHokutoKai.html>



東京北斗会

| [今後の予定](#) | [過去のできごと](#) | [会則](#) | [役員](#) | [入会申込み](#) | [北斗市のホームページ](#) |
| [会報](#) | [広報](#) | [ニュース](#) | [写真](#) | [会員などのお店、会社](#) | [コラム](#) | [会員名簿](#) |
| [北斗市HPの会の紹介](#) |



今期の「東京北斗会」役員名簿

役職名	氏名	電話番号	出身小学校	役職名	氏名	電話番号	出身小学校
会長	佐藤 金也	ホームページでは電話番号は削除させていただきます	茂辺地	幹事	武井 満野子	ホームページでは電話番号は削除させていただきます	峯 朗
副会長	坂本 東洋志		茂辺地	幹事	加藤 和子		茂辺地
副会長	佐藤 則道		谷川	幹事	長澤 久子		谷川
事務局長	米田 正彦		大野	幹事	松田 有司		上 磯
会計監査	簡 和弘		峯 朗	幹事	龍崎 千遙		石 別
会計	谷杉 栄策		浜 分	事務局	外山 幸雄		上 磯
会計	花木 瞳		沖川	事務局	宮崎 里志		上 磯
幹事	高橋 昌三		石 別	事務局	池田 喜久雄		茂辺地
幹事	細川 国勝		浜 分				

電子メールアドレスを登録してください

電子メールアドレスを登録していただければ、行事などの連絡を直接電子メールで送信させていただきます。ご希望の方は、次の電子メールアドレスにその旨をメールしてください。 yuksoto@gmail.com 受取りは「事務局 外山」です。



東京北斗会では本年の活動の重点目標を次の4つにおきました。
①新入会員を増やす ②会員の親睦を図る ③ホームページを充実する
④広報を発行する
新入会員は8名でした。東京北斗会を引き続き、よろしくお願いします。

